

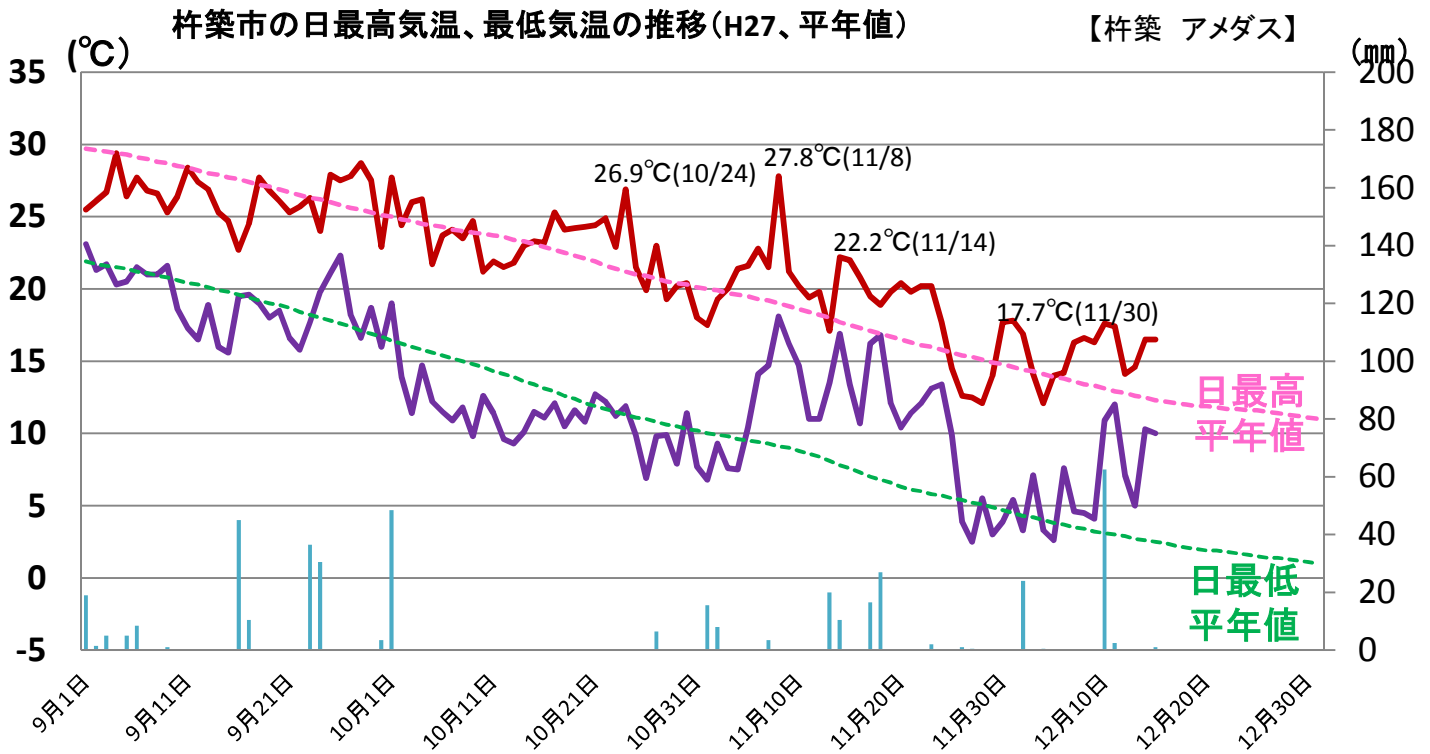


【東部振興局管内】 椎茸普及指導情報 第49号

椎茸の作業が忙しくなる時期にさしかかってきました。ほだ木の状態はいかがでしょう？チェーンソーや林内作業車などを扱うときは、特に安全作業に心がけましょう。

1 今秋の気象状況と今後の予報について

今年は11月～12月中旬にかけて平年より温暖な状況が続いています。また、気象庁の3カ月予報では、気温は平年並みもしくは平年より高くなる確率が高く、暖冬が予想されます。特に低温菌の発生が危惧されますが、水分管理等の発生管理をよろしくお願いたします。



◆長期予報について

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

【気温】 平成27年11月25日
[九州北部地方(山口県含む)] 福岡管区気象台発表

3か月	20	30	50
12月	20	40	40
1月	20	40	40
2月	20	40	40

【降水量】
[九州北部地方(山口県含む)]

3か月	20	40	40
12月	20	40	40
1月	30	30	40
2月	30	30	40

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

12月

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

1月

平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

2月

平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

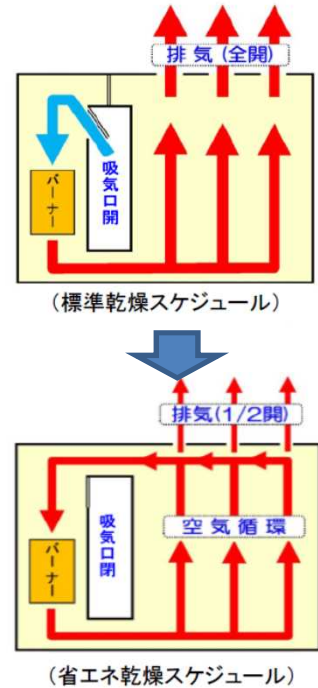
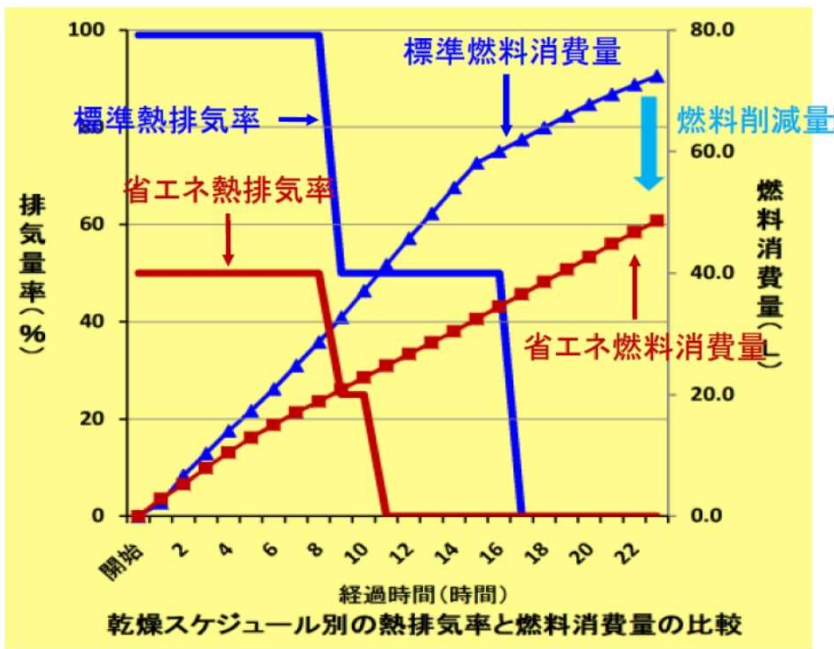
2 省エネ乾燥の技術について

林業研究部きのこグループでは乾燥初期から温風を庫内循環させる技術改善をはかり、約20%の燃料消費削減が可能な省エネ乾燥技術を確立しました。

下図のイメージのように乾燥初期の吸排気を調整することで消費燃料を抑える方法です。

新たに取り組んでみたいという方がいらっしゃいましたら、乾燥機の型式を確認の上、改めて説明させていただきたいと思います。

【乾燥工程初期のイメージ】



3 ビニール被覆・袋かけについて

冬期のビニール被覆は発生したシイタケの成長促進のほか、雨子対策（＝品質向上）等の効果が期待できます。しかし、利用方法によっては逆に収量低下や品質低下を招くこともあります。

寒い時期ほど効果大

（最低気温5℃以下の日が続き、きのこの成長が止まった時）

※ビニール等の購入は椎茸農協・各種駒メーカーにご相談ください。



被覆時の留意事項

- ①被覆内の温度が上昇するとシイタケは小型のまま傘が開き品質低下を招くおそれがある
→被覆内部の温度が20℃を超えないように注意する。
- ②ビニールを掛けた状態で放置管理すると艶と肉しまりのないシイタケに成長する。
特に湿度の高いほだ場では、夜間から早朝に被覆内に水分が結露する
→気温が上昇し始める10時頃には開放し、風を通すようにする。
- ③暗いほだ場では被覆することで、日中の温度確保が困難となり成長低下を招く恐れがある
→日中はビニールを開放する等の管理が必要。
- ④被覆期間が長くなると、ほだ木の過乾燥を招き、次の発生が極端に少なくなる恐れがある
→ほだ木の状態をみながら速やかなビニール除去、散水管理を実施する必要がある。

主要品種の発生操作(秋春出系)

品種	発生温度域	ほだ起こし	発生操作(散水の目安)
森290 秋45% 春55%	7～20℃	日平均気温19℃ 最低気温13～14℃以下 になった頃	ほだ起こし後8～12時間連続 間けつ散水なら3～4時間×3～4日 古ほだ10℃以下17～24時間 春:1月下旬～2月上旬(日中) 連続なら17～24時間 間けつなら3～4時間×3～4日 ※8割方収穫後6～12時間 ※発生したきのこが乾燥するようなら 午前中20～30分程度の成長散水
森・ゆう次郎 秋40% 春60%	7～20℃	日平均気温15℃ 最低気温10℃以下	ほだ起こし後、8～12時間連続 間けつ散水なら3～4時間×3～4日 古ほだ8℃以下17～24時間 春:1月中・下旬～2月上旬 連続なら17～24時間 間けつなら3～4時間×3～4日 ※8割方収穫後6～12時間 ※発生したきのこが乾燥するようなら 午前中20～30分程度の成長散水 ※12月下旬～2月上旬の冬場はビニール被覆等 で良品採取が有効
菌興327	14℃以下	最低気温 14℃以下	ほだ起こし後24時間 古ほだ8℃以下24時間 2回目、日中8時間×2日 春1月下旬～2月上旬(日中) 3～4時間×3～4日 芽が乾いたら:午前中3時間程度の散水 順調なら年内に2回の発生、 年内発生が多ければ、春子は少ない傾向にある。
菌興240	14℃以下	最低気温 12℃以下	ほだ起こし後24時間 古ほだ8℃以下24時間 2回目、日中8時間×2日 春1月下旬～2月上旬(日中) 3～4時間×3～4日 芽が乾いたら:午前中3時間程度の散水 分散発生型、きのこは大型、春も比較的遅くまで 分散的に発生する。
セッコー 11号	7～20℃	最低気温 14℃以下	ほだ起こし後20～24時間散水 8割程度収穫後に12時間散水で連続発生を促す。 厳寒期は、ビニール被覆等で成長させ収穫する か、休養させ2月中旬頃に12時間程度の日中散 水で発芽を促す。 古ほだ:10℃以下17～24時間 春:1月下旬～2月上旬(日中) 連続なら17～24時間 間けつなら3～4時間×3～4日

主要品種の発生操作(春出系)

品種	発生温度域	ほだ起こし	発生操作(散水の目安)
森 春光 春太 121	7℃～ 20℃以下 7℃～ 17℃以下 7℃～ 18℃以下	最低気温 8℃以下	ほだ起こし後17～24時間 芽切り後発生分は、ビニール被覆や乾燥時は成長散水(日中)等で年内に収穫。その後、水分を抑制ぎみで管理し、1月中旬頃の寒波に併せて、24時間程度の散水(凍結も可) 古ほだ:ほだ木水分を抑制(30日程度)後、1月中旬頃の寒波に併せて、24時間程度の散水(凍結も可)
森 908	14℃以下	最低気温 5℃以下	ほだ起こし後24時間 芽切り後発生分は、ビニール被覆や乾燥時は成長散水(日中)等で年内に収穫。その後、水分を抑制ぎみで管理し、1月中旬頃の寒波に併せて、24時間程度の散水(凍結も可) 古ほだ:ほだ木水分を抑制(30日程度)後、1月中旬頃の寒波に併せて、24時間程度の散水(凍結も可)
森 だい次郎	7℃～ 18℃以下	最低気温5℃以下	ほだ起こし後、ほだ木水分を抑制(30日程度) 1月中旬頃の寒波に併せて、24時間程度(凍結散水効果あり) 古ほだ:1月中・下旬頃の寒波に併せ、24時間程度の散水(凍結は不可) 過度の低温刺激は集中発生し、きのこが小型化する。
菌興 115 193 169 170	発生8℃以下	最低気温5℃～8℃以下	115・193の新ほだ木:最低気温5℃以下 169・170の新ほだ木:最低気温0℃以下 古ほだ木:最低気温0℃～-5℃程度の寒波時 散水時間:24時間程度 初回発生は12月、1月は、ビニール被覆等で良品採取。採取後、日中8時間×3日程度の散水で2回目の発生収穫を行い、収穫後、日中8時間×3日程度の散水3回目を収穫。 芽が乾いたら:午前中3時間程度の散水
セッコー とよくに	7℃～ 20℃	最低気温 10℃以下	ほだ起こし後20～25時間 芽切り後は、ビニール被覆、乾燥時は成長散水(日中)等で年内に収穫。8割程収穫後、24時間程度の散水で次の発生を促す。 古ほだ:最低気温が10℃以下になったら24時間程度の散水で発生を促す。初回収穫後は、新ほだと同じ操作



大分県東部振興局 農山漁村振興部 林業・木材・椎茸班
 担当:宮本(国東市エリア) 田辺(別府市杵築市日出町エリア)
 TEL:0978-72-0156 FAX:0978-72-3697